

## 美原記念病院ブレインバンクからの年次報告(2015年度)

### Annual reports from Mihara Memorial Hospital Brain Bank (FY 2015)

田野 光敏<sup>1</sup>, 高尾 昌樹<sup>1,3</sup>, 増茂 愛海<sup>1</sup>, 青柳 真一<sup>1</sup>, 飯島 仁美<sup>1</sup>, 松村 清可<sup>1</sup>,  
田村 未来<sup>1</sup>, 谷津 隆之<sup>1</sup>, 諏訪部 桂<sup>1</sup>, 木村 浩晃<sup>1</sup>, 高橋 陽子<sup>1</sup>, 相澤 勝健<sup>1</sup>,  
赤津 裕康<sup>4,5</sup>, 村山 繁雄<sup>6</sup>, 美原 盤<sup>1</sup>, 美原 恵里<sup>2</sup>, 美原 樹<sup>1</sup>

1. 公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院
2. 公益財団法人脳血管研究所 介護老人保健施設アルボース
3. 埼玉医科大学国際医療センター 脳卒中内科・神経内科
4. 医療法人さわらび会 福祉村ブレインバンク
5. 公立大学法人名古屋市立大学 大学院医学研究科
6. 東京都健康長寿医療センター 高齢者ブレインバンク

#### 【目的】

日本神経科学ブレインバンクネットワークを構成する美原記念病院ブレインバンクにおける2015年度までの現状を報告する。

#### 【方法】

当施設は2007年からブレインバンクを整備し、日本神経科学ブレインバンクネットワーク1施設として、剖検、その後組織診断できる体制を確立し、症例を蓄積してきた。死亡後は剖検前に頭部MRIを施行し、必要に応じて全身のCTも実施している。右脳と脊髄の一部は-80℃で保存し、分子生物学的解析のため保存。免疫組織学的染色は自動免疫染色装置で施行。他施設からの剖検依頼や標本作製・診断依頼も受け入れる体制とした。

#### 【結果】

現在、192例(2015年11月末)の凍結試料を有している。最も多い疾患はプリオン病で凍結試料が39例あり、臨床診断、入院受け入れ、剖検、組織診断まで対応をしている。次に多いのは筋萎縮性側索硬化症の32例で、脊髄を多く凍結保存していることから、凍結試料の希望研究機関が多い。続いて脳血管障害の29例、アルツハイマー型認知症が22例、脊髄小脳変性症9例、パーキンソン病8例、進行性核上麻痺5例、多系統萎縮5例、レビー小体型認知症3例、その他の神経変性疾患4例、その他の症例が36例であった。

剖検依頼に関しては、プリオン病剖検が困難な施設、臨床的にプリオン病も念頭におかれ剖検ができないケースや、剖検施設がない療養型病院や老人ホームにおいても、事前同意されている場合は各施設と連絡をとり、当院で患者搬送を行い剖検している。本年度は、プリオン病に関して1件と慶應義塾大学百寿総合研究センターとの共同研究で県外の114歳の剖検依頼があった。標本作製・診断依頼は12件であった。

#### 【結語】

施設により蓄積される症例の傾向が異なるため、ネットワーク全体で試料を研究者に供与するシステムの構築は重要である。